

青梅のにじ

〈発行〉

日本基督教団 隠退教職ホーム 〒198-0052 東京都青梅市長洲2-687
にじのいえ信愛荘 電話：0428-22-2283 FAX：0428-22-2317
運営委員会 須藤 繁 Eメール：nijioiesinaiso@wish.ocn.ne.jp

振替口座番号 00120-3-358467

加入者名：にじのいえ信愛荘

にじのいえ信愛荘を訪ねて

西東京教区総会議長・相愛教会牧師 真壁 巖



見よ、兄弟が共に座っている。な
んという恵み、なんという喜び。

(詩編133:1)

5月20日、相愛教会婦人会(牧
師を含む10名)で、にじのいえ信
愛荘をお訪ねしました。週間天
気予報では雨でしたが、当日は
見事な五月晴れとなり、施設を
囲む緑が一段と鮮やかでした。

2台の車で迷った挙句の到着
でしたが、笑顔のお出迎えに心
癒され、爽やかな気持ちになり
ました。棟に入るなり、裏山で
草取りをしておられた岩戸五郎
さんから歓迎のご挨拶。週に1
回泊まり込みで献身的にご奉仕
されている岩戸さんのお働きが
あってこそその快適な暮らしです。
献金だけでなく、このような
信徒による働き手によってこの
ホームが支えられてきたことを、

訪問早々目の当たりにしました。
松村誠一施設長の丁寧なご案
内で、明るいホーム内を拝見さ
せていただきながら、4年前の
喜びに包まれた「にじのいえ信愛
荘合併B棟献堂式」を思い出しま
した。

その後、食堂で入荘者の方々
と一緒に昼食をいただきました。
訪問者10名が散り散りになり、
各テーブルで多くの入荘者と交
わりを深めることができました。
そんな恵みの食卓で「なるほど」
と実感したことがありました。

それは入荘者の皆さんが今も
牧会者であられることです。ど
のテーブルでも訪問者は温かく
迎えられ、ここでの快適な暮ら
しぶりを入荘者の方々からお聞
きすることができました。共通
していたのは「食事が美味しく
て、お野菜が豊富！」なことと、
「いつもお支えくださり感謝」と
いう言葉だったようです。皆さ
んすでに隠退された教師、また
元牧師夫人の方々ですが、相手
への配慮と感謝を忘れないお心
遣いに教えられる思いでした。

私と同席くださった婦人教師
は「18歳で洗礼を受け、今もその
信仰は変わりません」と、お若い
頃の苦労話と共に、生涯一牧者
の姿を示されました。他のテー
ブルでは、3年前の大震災で、
ご自分が洗礼を受けた信徒が津
波の被害で亡くなられたことを
お話しくださったとのことでした。
決して喜びや感謝だけではな
い経験をされながらも、今与え
られている時と場を日々感謝し
ておられるのです。

聖書に「働く者が報酬を受ける
のは当然である」とありますが、
信徒が牧師の生活を支えること
をこのホームは基盤とし、隠退
後の生活も支えてきました。
さらにこの業が祝福されるた
めに、できるだけ多くの方々に
「にじのいえ信愛荘」を訪ねて
いただきたいと思えます。

そんな思いを持ちながら、昼
食後にガラス磨きと草むしりの
ご奉仕をさせていただきました。
美味しい昼食と入荘者の歓迎ぶ
りに対して僅かな奉仕でしたが、
その分いただいた元気と喜びを
教会に持ち帰り、再びお訪ねし
たいと訪問者一同願いました。
恵みと喜びに満たされた一日を
ありがとうございました。

復活の主ハレルヤ

にじのいえ信愛荘

イースター礼拝

2014年4月21日(月)にじ

のいえ信愛荘では、イースターの翌日10時30分からイースター礼拝が捧げられました。

説教 「夜明けは近い」

ヨハネによる福音書 21・1～14

西東京・阿佐ヶ谷教会牧師

大村 栄



弟子たちはガリラヤ湖で漁をしていた。「しかし、その夜は何

- 【礼拝】 チャペル
- 司式 吉川幸子師
- 奏楽 大村邦子氏
- 頌栄 542
- 主の祈り
- 交読詩編 30編1～6節
- 聖書 ヨハネによる福音書 21章1～14節
- 祈禱 146
- 讃美歌 「夜明けは近い」
- 説教 大村 栄師
- 祈禱 151
- 讃美歌 使徒信条
- 聖餐式
- 讃美歌 271
- 感謝献金 544
- 頌栄
- 祝祷

もとれなかった」。そこは当時、ローマ皇帝の名からティベリアス湖と呼ばれていた。ローマの支配の中で、民衆は息を潜めていた。この夜の不漁は当時の世相の暗さや、彼らが「人間をとる漁師にしよう」と主イエスに招かれて従事してきた伝道の空しさを象徴するようだ。

暗い気持ちで夜の湖面を港に戻ってきた彼らに、明け方の薄明かりの中で、「子たちよ、何か食べるものはあるか」と問う人がいた。「ありません」と答えると、「舟の右側に網を打ちなさい。そうすればとれるはずだ」。その言葉に従ってみると驚くほどの大漁だった。

岸に戻ってくると、そこには朝食が用意されており、主は弟子たちを招かれる、「さあ、来て、朝の食事をしなさい」。彼らは恐る恐る、しかし懐かしいイエス様の前に集い、朝日の中でうれしい食卓を囲んだ。

ローマの圧政に悩む時代の闇があっても、この食卓で彼らは、復活の主イエスと共に生きる朝が来たことを直感した。闇の中をさまよう者に、主は復活の出来事を通してよみがえりの朝、希望の明日を備えて下さる。

岡林信康の作詞作曲による「友よ」(1968年)という歌がある。「友よ、夜明け前の闇の中で／友よ、戦いの焔を燃やせ／夜明けは近い、夜明けは近い／友よ、この闇の向こうには／友よ、輝く明日がある」。

学生運動の嵐の中で盛んに歌われた。1964年の東京オリピックに象徴される物質的繁栄の一方、ベトナム戦争が本格化した時代だった。その頃毎晩のように新宿駅西口の地下広場で「フォークゲリラ」と呼ばれる集会が開かれ、ギターに合わせて「友よ」が繰り返し歌われた。

やがて時代の流れと共に学生紛争は静まり、西口広場のフォーク集会もなくなったが、時代の闇は晴れた訳ではない。今も私たちは不安定な社会の中を、もがきながら歩んでいる。「友よ、この闇の向こうには／友よ、輝く明日がある」と熱唱したあの時代と変わらぬ闇がある。

しかし私たちは復活の主の食卓に招かれている。あのイースターの朝以来、世の闇は主イエスによって克服され、夜明けは始まっているのである。

その復活の主を支えられて、私たちは伝道を行う。主を抜きにしては不漁だったが、主を信じて網を打つと大漁だった。復活の主が共におられるなら、伝道は無力ではない。主の食卓から出発して、世界に「夜明けは近い」ことを告げ知らせる教会の使命を担っていききたい。



【祝会】

ご復活の主を仰ぎつつイースター礼拝を守り、午後、多目的ホールにおいて「祝会」が開かれました。

濱田繁事務長による歓迎の挨拶に始まり、荘で結成された「にじのいえ信愛荘クワイア」(指揮・土屋恵子師)による美しい賛美がありました。曲目は、讚美歌21より「主の復活・ハレルヤ」でした。お一人おひとりが力強く、精一ばい賛美されているお姿に感動しました。出席者62名。

会食

心のこもったお食事をいただき、テーブル毎に楽しい会話がはずみ、和やかな時が流れました。食堂担当の皆さんの紹介があり、栄養士と和食・洋食・デザートの特典の方が、食事を準備するために心掛けていることを話されました。

独唱とトーク

やがて、バリトン声楽家・森野信生氏による独唱が始まり、マルティニーの「愛の喜び」、ヴェルディのオペラ「マクベス」



より一曲、讚美歌148番「復活」をトークを交えて独唱されました。最後に全員で、讚美歌Ⅱ182番「丘の上に十字架たつ」を賛美しました。ピアノ伴奏は森野啓子氏でした。バリトンの美声に酔い、そのダイナミックな声量に圧倒され、拍手が止みませんでした。「ホールの硝子が割れないで良かった」と冗談が出るほどでした。

紹介

静まったところで、司会者濱田繁事務長から参加者の紹介があり、招待者、運営委員、在荘の方々の自己紹介の後、職員、ボランティアの皆さんが紹介されました。自己紹介の中から、一部記させていただきます。



*ここは静かで、自由な時間が多くて、自分のことは自分でやり、時々病院に通いながらも楽しく過ごしております。ここにいられていただいで、本当に良かったと感謝しております。
*65歳で東神大に入学、教会で15年牧会し、入荘しました。自分でできることがあれば、何か役に立ちたいと思っています。
*腰痛で治療に通っています。しかし「年老いて、肉体は衰えても、内なる人は減びない。むしろ新しくされていく」ことを信じて、ゆだねて日々明るく過ごしています。感謝です。

*数年前
夫が召されました
が今は信仰の先輩たちに囲まれて生き生きと歩んでいます。

祝辞

祝辞は竹井祐吉先生、飯野元次元主事のお二人でした。まず竹井先生が「信愛荘」時代に、13年間荘長をしたと述べられ、田川勲先生の思い出話になりました。

「田川先生は耳が聞こえなくなったので牧師を退められた。『塩が塩気がなくなったら何の役にも立たず、投げ捨てられて人に踏まれていく。牧師も役に立たなくなったら人に踏まれる塩と同じだと思った。しかし道は人が踏んで道になる。だから自分も踏まれて役に立つのだと悟った。』そして『前向きに生きよう』と言われたのです。

皆さん!!素晴らしいメッセージだと思いませんか?」

飯野元主事は、信愛荘の歴史を語り、その中で40周年記念事業、多目的ホール建設に関わったこと、「お茶の会」を始めたこと、介護保険制度導入などの思い出を語られ、「第一線を歩かれた先生やご夫人方が、豊かな時間を過ごしていただけるよう願っています」と結ばれました。

最後に角谷多美子運営委員長挨拶により、和やかな祝会は閉会となりました。(石井泰子・報)

海外短期伝道の想い出



池田 貞子

今から34年前、1980年の春3週間の日程で、アメリカ・オレゴン州の教会訪問伝道にも参加いたしました。

東北教区の宣教師、アーミン・クレラー、エヴリンご夫妻のお導きで、日本人4人(生け花・茶道の師匠1人、大学生2人、牧師1人)の6人チームでした。

当時私は、仙台愛泉教会(揚野昇牧師)の開拓伝道地である泉市の新興将監団地中央に建てられた、仙台愛泉教会将監集会の定住牧師として派遣され、5年経過していました。東北教区から思いがけず、伝道旅行のお誘いをいただき驚きました。仙台学生センターの主事であったドーナ宣教師は「外国からの一方通行はすでに終わった。米国のように富める国、恵まれている国が精神的に豊かとは言えない。日

本の教会はアメリカとくらべ新しい精神的豊かさを持つている。宣教師からの報告だけでなく、日本人が直接出かけて伝えてほしいと言われました。

その意味で、これまでのお礼をこめて、日本人としてどのようにしてキリスト者となったかを伝えるために訪米することを決心しました。私にとって命がけの仕事です。英語は話せなくてもクレラー宣教師が通訳してくださいます。安心してオレゴン州の22教会を訪問しました。集会の始めには、生け花とお茶の日本文化が紹介され、続いてクレラー宣教師の通訳で、チームメンバーの証しがなされました。集会の後、教会員手造りのバイキング料理を戴き、その上献金まで戴きました。

3月7日の世界祈祷日には、メッドフォードのルーテル教会で、その年の主題「責任ある自由」のもと「個人に対する責任」、「家族に対する責任」、「社会に対する責任」の三つの課題がかけられ、ことにアメリカの教会では「家族に対する責任」がとりあげられておりました。スケールの大きな教会の抱く悩み

の深さをかいま見せられました。青少年の麻薬の問題、また驚いたことに、離婚問題の多いこと！家族より、個人を大切にするためであると知りました。そこで出会った4人の牧師さんもそうでした。私は日本のキリスト者として、家族伝道の大切さを、自分の家族の救いを通して語らせていただきました。『主イエスを信じなさい。そうすれば、あなたも家族も救われます。』使徒言行録16・31は真実です。集会后「米国の教会は、日本の教会から学ぶことが沢山ある。」といわれ、互いに固い握手をかわしました。生れて初めての海外伝道体験で多くのことを学ばせていただいた次第です。

メソジスト教会、コングリゲーションナル教会、プレスビテリアン、デイサイブルと街中が教会オンパレード。そして大変印象に残ったのが、インドシナ難民救済センターでした。母と子が英語の初歩から学んでいました。成人男子は大工の仕事、ペンキ塗りの仕事に就いていました。言葉の不自由さに加えて、精神的に不安定な人達を助けなければなりません。そのために

仏教寺院まで建てる度量の大きさに、さすがアメリカだと心打たれた次第です。事業は政府の教会がスポンサーであり、婦人会が積極的に活動されています。また、ある牧師さんはタイの男の子を養子として育てておられました。身障者のための職場、老人センター、そこでも教会婦人会のボランティア活動が盛んでした。その他酪農工場、ニッケル鉱山、ニッケル精錬所、老人ホームを見学、海岸の岩穴に群れるオットセイを眺めてくつろいだり楽しい時を過ごし、最後に引退宣教師方の家が建っている地域を訪問しました。

生涯を日本伝道に捧げられた、年老いた先生方に感謝をこめて抹茶を点て、一期一会の時を持ちました。ホームステイの貴重な体験も想い起こします。

3週間、チームを引率してくださりましたクレラー先生ご夫妻は今、ハワイの地で引退生活を送られつつ、日本のため祈り、東北の被災地を案じてくださっています。先生は90歳になられました。ご健勝を祈りつつ。

(にじのいえ信愛荘 在荘)

近況報告

庄長 有馬 歳弘

「にじのいえ信愛荘」が全国の諸教会、多くの主にある兄弟によつて支えていただいておりますことを感謝いたします。献金者のお名前を見る度に、改めて、教団の教会が支える「隠退教職並びに配偶者」の施設であることを実感しています。

2月の大雪にはビックリしました。奥多摩などでは、数日間積雪のため閉じ込められた集落がありました。それ程ではありませんが、「荘」では70センチ位積りました。緊急の車の出入りを確保しなければなりません。スタッフの雪かきは重労働でしたが頑張りました。東北から来た人は驚いていませんでしたが、土地の人も今まで経験したことがないと言っていました。

厳しい寒さに打たれたためか、暖かくなつてからの花は、例年よりも沢山花をつけて美しく感じます。荘の庭も造園されて3年目になり、落ち着いて見えます。

行事計画

・桜のお花見ドライブを楽しみました。多摩川の上流を走つて、昼食をいただきました。参加された皆さん満足の様子で、写真に写った顔は笑顔一杯でした。



・今年も「にじのいえ信愛荘」主催のイースターを祝いました。荘員の中から選ばれた3名の方と一緒に相談しながら実行できました。大村栄先生（阿佐ヶ谷教

会）が説教を快く引き受けてくださり感謝でした。ホール一杯の方々をお迎えし、温かいお交わりの時をもちました。

毎月、第一月曜日、「お茶の会」もあります。この働きはボランティアの方々によって続けられ、みなさん楽しみにしております。

職員のことについて

・松村誠一氏 4月より施設長に就任されました。精力的にスタッフのチームワークに気を配り、荘員の方々への配慮もゆきとどいています。

・萩生田明前施設長は4月より高円寺教会主任担任教師に就任されました。

・三浦恵美子生活主任 1月より就任され、介護主任の大野るり子さんと、共に気を配っていただいています。

・古川英子さん 事務長補佐として東京教区で経験されたことを生かして、力強い援助者となっております。

・パートで石井幸子さんと岩戸五郎さん、ボランティアで藤井英子さん、そして、宿泊ボランティアの方々の方々の働き人が



与えられております。

沢山の教会、グループの訪問を受けています。とても楽しいプログラムを用意していただき、楽しませていただきました。これからの予定にも予約をいただいております、中には奉仕の時間を加えてくださりまして感謝です。全国教会婦人会連合の関係で、委員の方々が東京にお集まりの時は「荘」を訪問していただき、慰めをいただいております。

新スタッフにきく

出席(五十音順、敬称略)

大野るり子 介護主任
濱田 繁 事務長
松村 誠一 施設長
三浦恵美子 生活主任
司会「青梅のじ」編集部



大野 最初は生活主任、現在は介護主任として仕事をしています。ここは隠退ホームであって、現在、介護施設ではないのですが、現在、介護保険を受けておられる方が11人となり、在荘者の半分を占めるようになりました。今迄介護施設で働いていた経験を生かして、私なりにできること



三浦 1月から生活主任になつたばかりで、まだ十分に状況を把握できていませんが、平均年齢が83歳ということ踏まえ、皆さんにとつて、やはりここが何よりと思つてくださるような生活空間を目指していきたいです。

大野 最初は生活主任、現在は介護主任として仕事をしています。ここは隠退ホームであって、現在、介護施設ではないのですが、現在、介護保険を受けておられる方が11人となり、在荘者の半分を占めるようになりました。今迄介護施設で働いていた経験を生かして、私なりにできること



松村 その通りです。皆さんが、気持ちよく引き受けてくださつて、何らかの形で自主的にお手伝いくださっています。私たちからも気が付いたことは無理のない範囲でお願いしたり、提供したりして、快適な共同生活を心がけています。最近では食事時の雰囲気作りにBGMを始めました。目下クラシックですが、「お気に入り」のCD持参も歓迎です」と伝えていきます。

濱田 2011年から会計を担当しています。最初に有馬荘長が言われた「先生方には尊敬の念をもつて接するように」を今も肝に銘じつつ、ここに通うのをとても楽しみにしています。

濱田 「荘には人生の最後まではいられない」と心配される方もおられるようですが、例えば現在、ご入院中は部屋を確保し、退院したら何時でも帰宅できるように配慮しています。自分の家



金によって支えられていることをいつも祈りの内に覚え、感謝しておいでです。

司会 財政面で厳しいとのことですが、現状はいかがですか。

濱田 確かに年々献金額が減少しています。2013年度はついに赤字になりました。高齢化による献金者の減少が一因のようですが、私たちは今後も引き続き全国の皆さまに献金をお願いをしていかなければなりません。一方、支出面においても今後改善すべき点は現場や運営委員会等で十分に検討していくことが求められると思います。

大野 ここは一応自立型ホームとなっておりますが、入荘希望者の年齢が高くなっているために、入荘されてまもなく介護が必要となつてきます。一般の介護施設と平均年齢が同じで、介護が当然ということになります。

濱田 「荘には人生の最後まではいられない」と心配される方もおられるようですが、例えば現在、ご入院中は部屋を確保し、退院したら何時でも帰宅できるように配慮しています。自分の家

荘日記



施設長 松村 誠一

●2013年11月

- 4日(月)スタッフ会 お茶会(23名)
- 9日(土)東京東支区壮年会来荘(10名) 浴槽手摺工事
- 13日(水)富士見町教会来荘(7名)
- 19日(火)紅葉狩り於白丸ダム(18名)
- 23日(土)チャリティコンサート(10名)
- 24日(日)霊南坂教会来荘(8名)
- 25日(月)誕生会・相談会
宮北京子介護主任送別会
給湯ポイラー点検
- 28日(木)井上医院健診
- 29日(金)玄関灯交換工事
- 30日(土)防災設備点検
- 2013年12月
- 2日(月)スタッフ会 給食会議
クリスマスお茶会(22名)
- 5日(木)ガスエアコン点検
- 6日(金)下谷教会来荘(4名)
- 9日(月)東京聖書学校来荘(17名)
- 11日(水)クリスマス委員会
- 12日(木)朝岡瑞子委員奉仕
- 13日(金)飯澤弘子委員奉仕
水道管工事
- 16日(月)相談会
- 17日(火)池袋西教会来荘(8名)
- 19日(木)井上医院健診
- 20日(金)青梅幼稚園児来荘(6名)

21日(土)めぐみ幼稚園クリスマス(8名)

23日(月)日本福音キリスト教会連

合青梅教会キャロリング(22名)

24日(火)啓明学園ハンドベル(24名)

青梅教会キャロリング(14名)

26日(木)クリスマス礼拝・祝会(68名)

29日(日)朝岡瑞子委員奉仕

金井弓子姉・岩戸五郎兄は数回宿直・日直奉仕

●2014年1月

1日(水)大野るり子介護主任へ

三浦恵美子生活主任就任

6日(月)スタッフ会

13日(月)お茶会(27名)

15日(水)防火訓練(18名)

黒田愛子師メディケア梅の里へ転院

22日(水)全国教会婦人会連合中

央委員(8名)来荘

23日(木)井上医院健診

26日(日)宮北京子氏定年退職

27日(月)誕生会・相談会

30日(木)運営募金委員会(8名)

●2014年2月

3日(月)スタッフ会

お茶会(20名) 給食会議

20日(木)井上医院健診

22日(土)エレベーター点検

23日(日)お汁粉会(20名)

24日(月)誕生会・相談会

4日(火)第1回イースター委員会(2~5回は略)

9日(日)長谷川淳子師青梅総合病院へ入院

10日(月)人事説明会

20日(木)井上医院健診

22日(土)成松三千子委員奉仕

24日(月)誕生会・萩生田明師送別会

25日(火)飯澤弘子委員奉仕

26日(水)朝岡瑞子委員奉仕

31日(月)相談会・萩生田明師退任

●2014年4月

1日(火)松村誠一施設長就任

古川英子事務長補佐就任

岩戸五郎パートで週1日・1泊勤務

藤井英子ボランティアで週2日勤務

7日(月)スタッフ会

お茶会(23名) 給食会議

9日(水)長谷川淳子師多摩リハビリテーション病院へ転院

13日(日)東京・西東京教区墓前礼拝(9名)

14日(月)中庭植栽補充

15日(火)LPガス点検

18日(金)お花見会 於小川内ダム(15名)

21日(月)イースター礼拝・祝会(62名)

22日(火)バスシステム点検

24日(木)井上医院健診

防災訓練(19名)

28日(月)誕生会・相談会

荘員数は23名、内訳は隠退教師14名・配偶者9名、女性18名・男性5名。

あとがき

第9号ができました。ご執筆のご協力を心から感謝申し上げます。

「にしのいえ信愛荘」となつてはや4年、その月日の経つ速さに驚かされます。在荘の皆さまが静かに、凛として向かわれるそのお姿に、生涯牧者としての、また、お連れ合いとしてのありようを私たちにお示しくださり感謝です。

年々、荘が財政的に厳しくなつてきたとの報告を受け、「青梅のにじ」をお読みくださる全国の教会の皆さまには、今後も一層のご理解とご支援をお願い申し上げます。

東日本大震災被災地に立つ教会と伝道所が困難な中、希望をもつて伝道の歩みを続けていくことができますよう、また、今なお復興のため労苦されておられる方々を、主が力強く励ましてくださいますよう祈ります。

編集委員会

- 石井泰子 (小松川教会)
- 岸 俊彦師 (経堂北教会)
- 黒沢咲子 (下谷教会)
- 阪口和美 (神奈川教会)
- 鈴木功男 (目白教会)
- 長・成松三千子 (柿ノ木坂教会)